
僕の罪

神崎泉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の罪

【Nコード】

N5012E

【作者名】

神崎泉

【あらすじ】

一人の少年の人生は、妹のある言葉で可笑しくなってしまった。少年の狂ってしまった人生を描いた話。

（前書き）

グロイ描写が出てきます。

内容的には虐めや虐待を中心にしています。

僕はいつも上辺だけ笑って生きてきた…

ある日、妹が僕に言った。

「ねえ、お兄ちゃんどうしていつも笑わないの？」

つと。

僕の仮面は、その言葉を聞いて崩れていった

妹を殴ったり蹴ったりした、もちろんばれないように体をだが…

妹はまだ幼かった。

しかし、時折うなるだけで抵抗すらしてこなかった

その日から僕は、枷を外されたライオンの様に毎日妹を虐待し続けた

妹は次第にうなり声を上げることも無くなった

妹は何を思ってたか、両親には僕がしていることを言わなかった

しかし、ある日妹は利き手を使わず不便そうにご飯を食べている。

母はそれを変に思い妹の利き手に触れた。

妹はそんなことをしてきた母を不思議そうに見つめた。

母は妹になぜ利き手を使わないのか尋ねた

妹はただ手が動かないと答えた。

母は急いで妹を病院に連れて行った

妹の手は折れていた

僕がやったわけではない

妹は学校でも虐めにあっていたらしく、体には僕が付けた傷もあったがばれなかった

手も折られたらしい

しかし、妹は手が動かないのを不思議に思っただけで何一つ痛みを感じなかったらしい

そう…妹は“痛み”と言う感覚を失ってしまったのだ…

妹が痛みを失い、虐めは加速して行った

学校側も何かと対処しようとしたらしいが、人数が多すぎて防ぎきれない

母は学校を変える決心をした

学校が変わってから妹は虐められた

母は毎日無惨な姿で家に帰ってくる妹を泣いて抱きしめた

僕は妹を虐待することを止めた

だって、僕が虐めなくても学校で散々見れたから…

そう、新しい学校は対処すらしてくれなかったので妹は全校から標的とされていたのだ

僕は上辺だけ笑って生活を続けた…

妹が、痛みつと言う感覚を失う前虐めていたのは僕。

きつと僕の虐待によって、妹は痛みを失った。

痛みを失った妹は、餓鬼共の格好の標的だったのだろう

だって何をしても痛みがないんだから…

そう思うと僕は何て事をしてしまったのだと思った

今更かも知れない…

だけど…僕は…

「オイ!!」

友達が突如僕を肩を揺する

「何？」

僕は再び表面のみで笑う

「お前どうしたの？さっきからずっと呼んでたのに…」

そう、この時から僕も可笑しくなってしまったんだ…

次の日からなぜか何も聞こえなくなった…

何も聞こえない…

その日から僕たちは周りからおかしな目で見られるようになった

こんな状態になった僕を支えてくれる友達なんて居なかった

多分みんな分かってたんだ…僕が心から笑っていなかったことに

僕はその日から妹と同じく虐められた…

しかし、これは罰なのかもしれない

僕が妹から痛みを奪ったから…

だから妹は、僕から聴覚を奪った…

母はその日から、妹同様無様な姿で帰ってくる僕を見て嘆き悲しんだ…

母はノイローゼになった

そして…単身赴任中だった父と共に自殺した…

こうして僕と妹は世間から取り残されていった

僕はある日妹に言った

「一緒に死のうか？」

妹はゆっくり首を縦に振った。

妹は死ぬと言う意味が分かるのだろうか？

僕はそう思ったが妹が承諾したから良いかと無理矢理割り切った

僕は妹に薬を渡した

とても強い毒性を持つ薬…

そんなものは今の世の中パソコンですぐに買えた

妹が死に、僕は妹を担ぎ独り屋上へ向かった

全てが見下ろせる学校の屋上。

僕はポケットから包丁を取り出した。

冷たく鈍く光包丁を静かに首に当てる…

包丁をそつと首に押しつけるとすんなり血が出た

血が首を伝って行く…

温かい…

僕は頸動脈を軽く傷つけたのみで手から包丁を放した

とても痛くって…苦しくって…

だけどこれは自分への戒め

妹に手をあげ痛みを失わせた罰なんだ…

なぜか凄く温かい…

こうして僕の意識は遠ざかって行った

人は死ぬ前に走馬燈を見ると言う

しかし、僕にはそんな物見れなかった…

（後書き）

なぜか、こういう作品を書くには好きです。

コレも、過去に書いた小説を掘り起こしてきました。

人の人生って些細な事で崩れていくモノのような気がします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5012e/>

僕の罪

2011年1月15日14時45分発行